

道路防災エキスパート

道路防災エキスパートとは

道路に関する災害が発生、または発生の恐れがある場合、被害拡大を抑える、または未然防止のため、一刻も早く道路管理施設や公共土木施設の現況(損傷状況)把握を行うことが重要です。しかしながら、特に大規模災害の発生時には、道路交通網や通信手段が寸断され、情報収集にあたる人員の不足が懸念されます。このような際、国道の維持管理について専門的な知識・経験を有する「道路防災エキスパート」が、道路情報の迅速な収集・通報の支援活動を、自主的あるいは要請を受けてボランティアで行います。

制度の設立経緯

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、行政機関も甚大な被害を受け、職員自らも被災しました。この際、行政経験のある技術者などのボランティア活動が初期段階における情報収集において大いに役立ち、これを契機として、行政支援を趣旨とした「防災エキスパート制度」についての検討が開始されました。平成8年度には、建設省(当時)の重点施策として、「防災エキスパート制度」が設立され、北海道開発局では平成9年1月に当センターを窓口として当該制度を自主的に設立しました。また、平成15年の台風15号や十勝沖地震など大規模災害の経験から、北海道開発局 防災業務計画に「道路防災エキスパートの活用を図る」と明記され、平成17年1月、北海道開発局長通達「北海道開発局 道路防災エキスパート制度の要綱」が策定されました。これに基づき、北海道開発局からの依頼を受け、当センターに「道路防災エキスパート事務局」を設立し、現在に至っています。

出動回数の推移

近年は増加傾向

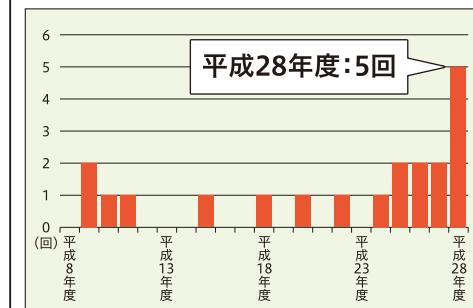


図1 出動回数の推移と災害種類(平成9~28年度)

出動要因(災害種類)

災害の種類	出動回数
豪雨	10
地すべり	2
地震	2
越波	2
崖崩れ	1
暴風雪	1
その他	2
出動回数計	20

組織の構成と登録状況

災害時に迅速な対応が求められる道路防災エキスパートは、全道を9地区(札幌・小樽・室蘭・函館・旭川・留萌・網走・帯広・釧路)に分割し構成しています。

現在の登録数は、全道215名(平成29年7月現在)で、近年はほぼ横ばい傾向となっております。

主な活動実績

道路防災エキスパートが災害等による出動した回数は、平成9年度から平成28年度までに延べ20回となっております(図1)。

近年、北海道内においても頻繁に発生する傾向となっている豪雨災害の対応などもあり、ここ数年の出動回数は増加しています。

これまでの主な出動実績として、平成15年9月の十勝沖地震の発生時には、余震が続く中、管内の巡回を実施し関係部所より感謝の意を頂きました。

また、平成24年5月の国道230号中山土砂災害、平成26年9月の国道453号支笏豪雨災害(写真1)においては、徒歩による道路排水などの点検を実施するなど、その活動に対し、開発建設部

より感謝状を贈呈いただきました。



写真1 国道453号奥漁川橋の損傷

平常時の活動として、このような災害発生時の迅速・円滑な対応に向けて各地域で定期的に「道路防災エキスパート連携会議」を開催しています。

また、防災関連の各種講習会や防災訓練等へ積極的に参加し、道路防災に関する最新情報・知識の習得、自己研鑽に努めるほか、技術の伝承を目的とした「エキスパート講座」を開催し、後輩となる道路技術者の育成にも取り組んでおります(写真2)。



写真2 エキスパート講座の開催

平成28年 北海道豪雨災害に伴う出動

昨年8月に北海道に大きな爪痕を残した「平成28年北海道豪雨災害」において、国道39号石北峠、273号三国峠、38号狩勝峠、274号日勝峠など全道各地で、落橋や橋台背面洗掘、法面崩壊など多数の甚大な被害が発生しました。

道路防災エキスパートにおいては、「網走地区」「帯広地区」それぞれのエキスパートが、道路管理者からの出動要請を受け、現地の被災状況確認や、復旧に向けた技術的支援などの活動を行いました。

この活動に対して、北海道開発局長による感謝状が、帯広道路・北見道路の各事務所長から両地区の道路防災エキスパート(帯広地区8名、網走地区

3名)へ伝達されました(写真3)。



写真3 感謝状の伝達式

活動紹介

「平成28年台風10号による被災状況調査(帯広地区道路防災エキスパート)」 H28.8/31～9/1

道路防災エキスパートへの 出動要請

国道38号、274号などでは、法面崩壊、落橋など甚大な被害を受けたことから、帯広開発建設部 帯広道路事務所より、平成28年8月31日8時50分に、道路防災エキスパートへの出動要請がありました。

出動要請の2時間後には、帯広地区的道路防災エキスパート7名が指定場所に参集し、管内の主要道路が通行止めとなっている中、被災箇所へ通行可能なルート確認や活動内容についてミーティングを行いました(写真4)。



写真4 参集時ミーティング

支援活動の内容

この活動は2日間に亘り、全8名のエキスパートが指定された被災箇所の状況確認と応急復旧に向けた技術的なアドバイス等を行いました。

①被災概要の把握(損壊箇所・規模など)②被災箇所の写真撮影(全13箇所、図1)③応急対策の提案(被災箇所毎の対策を提案)④道路管理者への調査報告(調査当日に実施)



写真5
国道38号狩勝峠:土砂崩落箇所

写真6
国道38号狩勝峠:車道の崩壊

写真7
国道38号小林橋の落橋状況

写真8
国道38号清見橋の橋台背面洗掘

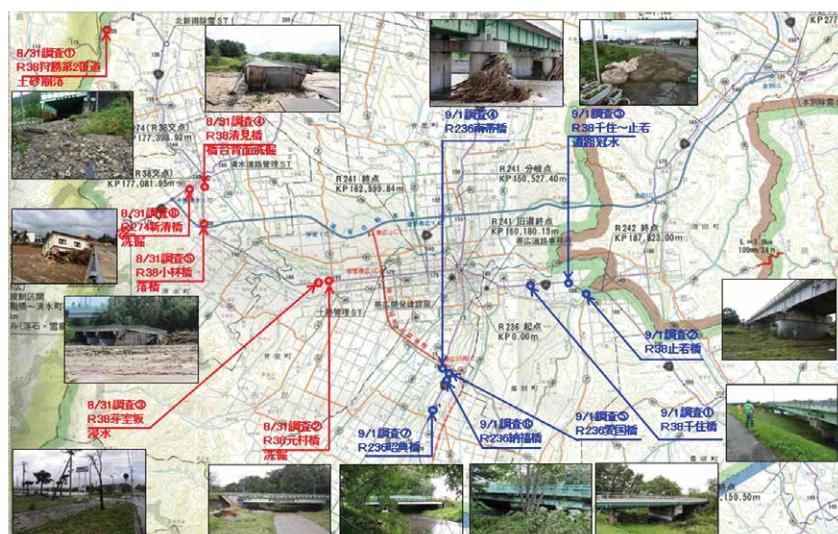


図2 道路防災エキスパート【帯広地区】[帯広道路事務所管内 台風10号被災状況調査箇所図]

「道路防災エキスパートの声」

帯広地区リーダー(H28当時) 佐藤 薫 氏

帯広地区は平成15年に発生した十勝沖地震以来13年ぶりの出動となりました。世代交代と高齢化により、要請に対して十分な行動がとれるか不安がありました。要請から2時間後には参集し、速やかに現場に出動することができました(図2)。

現地は被災直後で、まだ崩壊が進行中の

ところや危険を伴う箇所も多々ありましたので、二次災害に注意しながら慎重に現地調査を進めました。

今後とも緊急の出動要請にいつでも対応できるよう、道路管理者との情報共有や訓練への参加と健康の維持に努めて参りたいと思います。